

《健全な食生活の実践》

【現状・課題】

朝食欠食率、男女とも20歳代で高率

	全体	20歳代
男性	11.0%	25.3%
女性	6.2%	18.2%

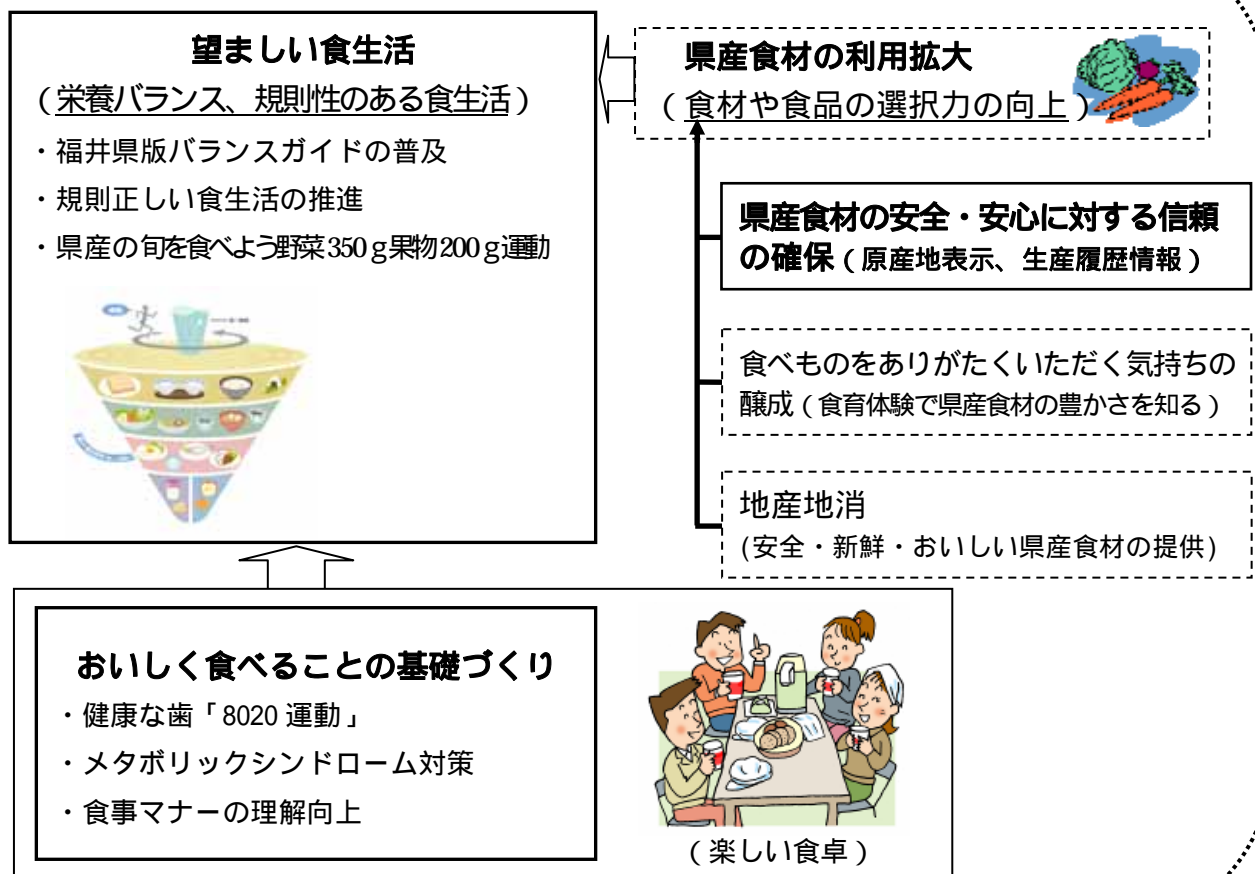
野菜の摂取量

県民一人当たり平均摂取量 296 g (県の摂取目標 350 g)

健康長寿につながる豊かな食卓づくり

『対策のポイント』

健康づくりにつながる望ましい食生活を強力に推進
安全・安心の信頼確保、食育体験等により県産食材や食品の利用拡大
おいしく食べるため、その基礎をつくる活動の充実



目 標

野菜摂取量の向上	296 g (H18)	350 g 以上 (H24)
朝食欠食率	20歳代男性 25.3% (H18)	15%以下 (H24)
	女性 18.2% (H18)	9%以下 (H24)

1 規則正しく栄養バランスのとれた食生活の推進

保育所や幼稚園における食育の推進

- ・福井県栄養士会や福井県食生活改善推進員連絡協議会と連携しながら、保育所や幼稚園において、親子で望ましい食習慣を考えるための食育出前講座を開催

学校給食を通じた望ましい食習慣の推進

- ・栄養教諭が中心となり、学校給食のなかで児童・生徒に対し栄養バランスのとれた食事について指導

高校生等若者の食選択力向上

- ・近い将来自立した食生活を送ることになる高校生が栄養バランスのとれた食事を選ぶ知識を身につけるため、食育ボランティアによる食選択力向上講座を開催
- ・高校生が食の重要性や食を選択する知識を身に付けるため、全国高校生食育王選手権大会等のイベントを開催(再掲)

福井県版バランスガイドの普及

- ・「福井県版食事バランスガイド」を利用して、子育て世代や働き盛り層の家族を対象にした栄養指導、食生活相談を実施

県産の旬を食べよう野菜 350 g、果物 200 g 運動の展開

- ・県内各地域の量販店などにおいて、旬の県産野菜や果物の基準量摂取に向け、健康の視点からの消費拡大キャンペーンを展開

2 おいしく食べることの基礎づくり

「おいしいふくい食べきり県民運動」による食べ残しの減少

- ・「おいしいふくい食べきり運動」協力店の拡大に努めるとともに、協力店に対し小盛メニューの提供や持ち帰りへの協力、来店者への声かけなどを促進

メタボリックシンドローム対策

- ・パンフレットやホームページ、健康教室等によるメタボリックシンドロームの概念を普及啓発

食事マナーの理解向上

- ・関係団体や企業などと連携しながら正しい箸の使い方や食前、食後のあいさつの意味への理解を深めるとともに、その実践を促進

3 県民の食の安全・安心に対する信頼の確保

農林水産物のトレーサビリティ情報の提供

- ・県産農林水産物のトレーサビリティ情報をホームページ「あんしんふくいの食ネット」において消費者等に提供

適正な食品表示の推進

- ・各種研修会において原産地表示などの食品表示制度を説明するとともに情報誌等により関連情報を提供

食の安全・安心情報の提供

- ・消費者に対し、消費者がアクセスしやすい食の安全・安心に関するホームページ等により、食品の安全性に関する情報（食中毒・きのこ・農薬・衛生管理に関する知識および監視状況等）を提供